【ミッションステートメント】「いっしょに歩こう！プロジェクト」～日本聖公会東日本大震災被災者支援

- ① わたしたちは、東日本大震災により困難を負って生きる人々に敬意を払っていっしょに歩きます。
- ② わたしたちは、被災地の方々の生活と地域の再創造に向けていっしょに歩きます。
- ③ わたしたちは、主イエス・キリストが、共に歩いてくださることに励まされていっしょに歩きます。

前回の支援室ニュースの発行からかなり間隔があいてしまいましたことをお詫びいたします。遅くなりましたが、今回は大幅にボリュームアップし、オープンから約2ヶ月間のセンターの歩みをお伝えいたします。

【支援センターオープン ～藤井司祭から内海執事へ～】

藤井司祭は1ヶ月以上にわたる釜石での活動を終え、開所礼拝前日の8月10日に帰函されました。開所に伴う様々な調整なども含め、多くの労をとってくださったことに感謝いたします。また、共に長い期間のお働きをされた直さんにも感謝いたします。本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

【内海執事の活動】

内海執事の活動報告より抜粋

※本日（8月12日）より内海、海老原の二人の共同生活始まる

実のところ、海老原兄が事務局専従としてその任を担うことになれば、小職としても幸いなことであると考えます。支援センター開設ということは、確実に神愛教会・幼児学園との距離が物理的に広がり、そのコンテキストが変わったということです。聖職を送るということは、定任教役者のいない教会・施設への牧会的・チャプレンシーの重視、ということに他ならないのですから。今後、支援センターの機能維持は主に信徒によりはかられ、聖職は引き続き教会・施設への関わりをなしていくことが、目的を維持していくことになると考えます。

8月18日（木）

本日は午前内海がセンターに残り、海老原兄は平田の仮設訪問へ。

カリタスの活動に加わり、向井姉の足湯の手伝いを行う。足湯はすばらしく、効果的な支援活動だと実感した。スキンシップとリラクゼーションの効果は絶大で、あそこに座る段階で心の扉が半分は開かれているのだろう。短い間ではあったが、カリタスの活動を体感できたのは有益だった。

8月20日（土）

本日は一日中、幼児学園・ユリ組さんの「お楽しみ会」。内海はベッタリ一緒にいる。午前中はプールへ、心配した雨も降らず陽が射して何より。園へ戻ってソーメンのお昼ご飯、ここで海老原兄も合流（兄は午前中社協にて菊池係長さんと面談。その後センターに「天神仮設」のKさんというご夫人が来られたのに対応。支援物資からいくつかお持ち帰りいただく）。

午後は夕食のカレー用の具材を子どもたちと一緒に作る（イモ、人参、タマネギ）。お昼寝の後、近所の公園に散歩。夕食は子どもたちの作った具材でカレーライス。夜6:30 親御さんが迎えに、一緒に「花火大会」、7:00 散会。

余震連日あり。

8月26日（金）

センターに戻り、海老原兄とともに幼児学園へ。高橋園長に明日一時帰札の挨拶と日曜日の打ち合わせをし、その後本郷へと向かう。運良く小池会長さんと面会することができた。9月に入ってボランティア青年たちが来るのにあわせ、本郷でのニーズをお尋ねする。幸い、流れ着いた「写真洗浄」の作業をして欲しい旨の答えがあった。近くなったら連絡を取り、詰めることとする。

8月31日（水）

神愛幼児学園へ。トルコよりのボランティア訪問団、日本人スタッフを含め男女16名が来園。トルコ地震の際、いち早く日本からの支援が入ったことに感謝しており、今回はそのお返しの意味もあるとのこと。仲

立ちは遠野社会福祉協議会。歌、踊り、手品等を披露して子どもたちと交わる。子どもたちもお返しに「バナナの歌」と「第9合唱」をドイツ語で歌った。最後にトルコの子どもたちからのお手紙と、記念のTシャツがプレゼントされ、記念写真を撮ってサヨナラをした。

9月5日(月)

8:30 カリタス・写真洗浄リーダーの佐中さん他男女7名と当方2名を加えて計10名、旧橋野小中学校(廃校)の体育館を作業場として洗浄作業に入る。昼食をはさみ午後3時まで作業。帰路、本郷の小池会長さんへTELを入れるも、現在当地は地方選挙中で市会議員の応援の真っ最中。夜にも再度こちらからTELすることを約束する。その後、予定を変更して両石から箱崎、鶴住居回って今まで見ていない所の被害状況を見て回る。

【青年ボランティア来たる】

9月6日(火)

13:30 ごろ、吉野執事と共に北海道教区の青年たちが訪れる。今回参加されたのは高木泉さん(深川)、齋藤晃さん(旭川)、大町包さん(マーガレット)の3名。青年たちのパワーに圧倒されます。まず、長らくの懸案事項であった大型冷蔵庫を2階に引き上げてくださいました。業者も運搬をあきらめた階段でしたが、何とか通し、これで食事等のときに何度も1階と2階を往復しないで済みます。本当に助かりました。その後は海老原兄の案内で陸前高田方面へ。はしゃいでいた青年たちが声を失っているのが印象的でした。

9月7日(水)

青年たちは、大館聖パウロ教会と北海道教区の婦人有志が始めた“座布団プロジェクト”のため、上中島仮設へ。注文を取ってから日数があいてしまっているの、その確認のためです。青年たちは岩手 GINGA-NET という岩手県立大の学生グループとも出会い、いろいろなことを考えさせられたようです。また、この日は理事長がセンターにソファをご提供くださるとのことで、園のほうに取りに伺いました。ここでも若者たちのパワーが発揮されます。さすがです。

9月8日(木)

今日は全員で、釜石市街周辺の小漁村“本郷”に写真洗浄の作業にでかけます。本郷での作業は全員出かけてしまうので、センターが留守になってしまうのが難しいところ。本郷に到着後、Mさんのお話を伺い、作業開始。始めは慣れない作業でしたが、徐々に作業のコツがわかってくるとどんどんはかどります。でも、ざっと見たところ漁具の箱10箱以上に満杯の状況。今日仕上がるのは良くて1箱分くらいでしょうか。お昼ごろ、加藤主教と李チャンヒ司祭がお訪ねくださり、昼食と午後の作業を共にしました。この写真洗浄はセンターが継続的に関わっていかなくてはならない作業です。ある程度の時間があるとは言っても、いつまでも伸ばすわけにはいきません。ある程度の目処をつけるためにも、お手伝いくださる方が必要です。どなたでもできる簡単な作業です。多くの方がお手伝いくださるといいのですが・・・。夕方、一日だけですが青年たちを伴い、神愛幼児学園へ。遊んでくれる若いお兄さん・お姉さんの登場に子どもたちは大喜び。たくさん遊んで、こちらはもうへとへとです。

9月9日(金)

今日は青年たちの滞在する最後の日。今日は午前中だけの作業ということで、センター内の環境整備を行います。新しく棚を取り付けたり、妙なところに段差のあるセンター内部をセメントで埋めたりと、若いパワーは大活躍です。でも、様々な作業が大幅に進みました。青年たちの働きに感謝します。また来てくださいね。

【内海執事から吉野執事へ】

9月7日(水)吉野執事は内海執事と共に神愛幼児学園の幼児礼拝に出席。内海執事と園児たちはお別れ。いつもやさしい“パウロさん”とお別れに子どもたちも涙。9日(金)吉野執事との引継ぎを終え、内海執事は青年たちを引率して帰路につきました。暑い中、釜石支援センターの立ち上げ期間の運営に尽力してくださいましたことを感謝いたします。

【吉野執事の活動】

吉野執事の活動記録より抜粋

9月10日(土)

青年たちが帰って静かになったと思ったら、大館聖パウロ教会から小野司祭ご夫妻を含め8名が、120枚の座布団を持って来てくださった。6月くらいから注文を取っていたものだ。炎天下の中、上中島仮設・大畑東仮設の注文をいただいたところに配る。さすがのこれだけ人数がいると配るのは早い。座布団を目にした人たちから追加の注文や問い合わせも入るが、枚数が限られているのが難点。平等に支援するというのは難しい。柄や大きさが違うと、かえって仮設に入居されている方たちの間の関係が壊れてしまうことがある。なるべく同じ柄、クオリティを保たなくてはいけない。本当に難しい。

9月13日(火)

午前中は畑南仮設住宅に、注文の座布団を届けに行った。先日留守だった分だ。全部で4戸。1戸は留守だったが、他のお宅にはお渡しすることができた。追加も3件ほどいただいたので、後日調べてくることを約束する。ここでは、冬物の布団の需要が結構あるようだ。更に奥の小さな仮設(畑西)へ。中を見て回って、おばさんと立ち話。とあるボランティア団体の主催していたお茶っこサロンについての意見を交換。“お茶を飲むだけじゃダメ”“震災の話はしたくないのに結構無理に聞こうとする”などなど、厳しい意見が。こちらの仮設では、もしかしたらお茶出しや、支援物資の配布、買い物ツアーなどをさせてもらえる可能性があるので、貴重な意見が聞けたと思う。

9月17日(土)

本日は神愛幼児学園の運動会。7:00から準備をしているらしいが、さすがにその時間には行けないので、8:30には到着できるように早めに出る。昨日から滞在している山岡みゆきさん、Kさん、影山愛さんは、海老原くんといっしょに本郷で写真洗浄を行う予定。微妙に曇りの天気。でもかえってカンカン照りよりは子どもたちの体調にはいいだろうと思う。今日は大槌高校の生徒がボランティアに2名来ていた。思ったよりも盛況の運動会は、年長さんのマーチングバントにて始まる。かけっこ、リレー、玉入れのおなじみの競技や、かわいいお遊戯など、久々に楽しませていただいた。

競技中、大石のNさん、上中島仮設のSさんが、お祝いを手に訪問してくださった。Sさんには会えなかったが、Nさんご一家と少しお話をさせていただいた。Nさんは相変わらず元気がなく、ちょっと心配である。気分転換になればいいと思ったのだが・・・。

9月21日(水)

目下台風が接近中ですが、隙間と言う隙間から雨が侵入しています。玄関部分も、浸水しそうです。特に、女性用にしている部屋の窓の隙間は大きく、畳までぬらす勢いです。2F居間の窓も浸水気味です。とりあえず、断熱用の窓シートなどで対策をするつもりですが、もし可能なら、サッシの入れ替えを希望します。隙間テープ等で何とかなる状態ではありません。サッシごと覆ってしまわなくてはなりません。

9月23日(金)

三連休初日。今日は急遽外国人ボランティアを新生釜石教会からの依頼で引き受けることになった。来たのは4名。カナダ人・アメリカ人・イギリス人の4人組。英語のネイティブの教員として秋田に来ているそう。今回は本郷の写真洗浄を手伝ってもらった。今回もセンターでの作業。慣れない日本語英語交じりの会話に少々疲れる。どうやら新生釜石教会でもカリタスでも急遽過ぎて対応できなかったのも、うちに回ってきたようだ。作業はやる気満点で、ちっとも休まない。こっちが熱気に当てられそうだ。“がれきの片づけをやりたい”と熱心に希望しており、どこに行けばいいのかを聞いてきた。片言の英語で、“仕事(job)”としてやっているところが多いので、そういったボランティアはあまりない、ということも伝えたが伝わっただろうか。

9月26日(水)

5時ごろ園を辞して、もう一度、さっきの留守宅に座布団をもって行きます。そのうちの1件は、座布団10枚の大口です。今日はいらっしゃって、渡すことができたのですが、なんと10枚のうち5枚は、離れた仮設の友人の分とのこと。甲子の奥だそうなので、こちらが動いて届けることにします・・・が、場所がわかりません。普段行っていて場所がわかるのは甲子第2(畑南)と第7(畑西)ですが、今回は甲子第10(畑東)。場所を聞いて行ってみましたが、狭いでこぼこ道を何度往復しても、その場所がわかりません。

今まで入り口がわからなかった甲子 A (松倉)、甲子 B (松倉)、甲子 C (松倉)、甲子 D (松倉) の場所はわかったのですが、肝心の甲子第 10 (大畑東) は影も形も見えません。車一台通るのがやっとのでこぼこ道を何度も往復して、いい加減腰が痛いのです。何とか自力で見つけたかったのですが、遅くなったらかえって悪いので、お渡しする O さんという方に、わかるところまで迎えに来ていただきました。同乗して場所を教えもらったのですが、確かに曲がるところが本当にわかりづらい場所で、“こんなところに仮設があったのか!!” という感じです。でもそこは、50 件くらいの中くらいの仮設団地で、談話室もありました。が、ボランティアの人たちもわかりにくかったのでしょうか。あまり入っていないようで、談話室には何も貼ってありませんでした。“お茶っこ” ができるなら、ここにも来るといいかもしれません。

9月27日(木)

今日が丸一日釜石で過ごす最後の日。いろいろな思いが飛び交います。午前中はとりあえず、前日留守だった 2 件に座布団を配りに。ついでに、先日発見した甲子の仮設に海老原くんを案内します。甲子第 2 (大畑南) の仮設のお宅はまた留守で、隣の人に聞くと、元気になっているとのこと。とりあえず安心しました。そのまま甲子第 10 (大畑東) を案内します。昼に行くこの仮設はびっくりするくらい人が歩いておらず、談話室にも特にイベントがある様子ではありません。改めて見たのですが、入り口は、ここに曲がり角があるとは信じられないほどの入り口でした。ここは“お茶っこ” をやる時の第一、第二候補だなあと感じます。その後、狭い路地を抜け、甲子 B (松倉)、甲子 C (松倉)、甲子 D (松倉) へ行くと、こちらはボランティアも入って多少活気が見えました。さらにその後、小川 (こがわ) 方面の仮設を探しに行くことに。まず、市民体育館の脇の大きな仮設団地 (桜木町) を眺めつつ、更に奥へ。しばらく走ると、下のほうに仮設を見つけたのですが、入り口がわかりません。しばらく走っていると降りる路地を見つけたので、砂利道をしばらく行くと、旧小川小学校の校庭にある仮設を見つけました。割とモダンな感じの仮設で、設備もいいようです。調べるとミサワホームの仮設とのこと。やっぱり大手は違いますが、こういった格差も少々気になります。なんとこの小川小学校の仮設は、旧校舎の一部を利用して、近隣の農家の方が直売所を営業しているなど、談話室が設置されていないにもかかわらず、活気に満ち溢れていました。入っている住民の層もお年寄り多めなのですが、それでも活気があります。隣の小川公園の仮設も似たような感じでした。地域住民と、仮設の人たちの関係が上手くいっているように感じました。

【吉野執事 帰道】

吉野執事は 28 日 (水) の神愛幼児学園の誕生会に出席の後、函館での礼拝研修会に出席するために、釜石を出發しました。青年引率から始った 3 週間にわたるお働きに感謝いたします。

【横山司祭 釜石入りを一時断念】

吉野執事の働きを引き継いで横山司祭が釜石に着任の予定でしたが、眼科手術とその後の療養のため、当面の赴任が困難となりました。その間、釜石支援センターには 10 月 3 日 (土) から東京教区の須賀義和司祭が、10 日 (月) ~ 14 日 (金) に東北教区の李チャンヒ司祭が入ってくださることになっています。北海道教区からの後任の教役者に関しては現在調整中です。横山司祭の療養のためお祈りください。

【〇〇先生と行く釜石 4 泊 5 日の旅・実施】

震災支援室では、教区の多くの方が釜石での活動に関わってほしいと願っています。しかし、費用的なこと、乗り継ぎの困難さなど、現地に行きづらい状況があるのも事実です。そこで、今後月に 1 回くらいのペースで“教役者が引率する釜石ボランティアの旅” を企画いたします。引率教役者 (又は参加者) の運転で、フェリーを利用して行きますので、安心して釜石入りしていただけるものと思っております。尚、乗車定員の関係で、1 回の募集は 3 名~4 名となります。ご了承ください。

日程としては、水曜日ないし木曜日の夜に苫小牧発のフェリーで出發。翌朝八戸着。海沿いを視察しつつ釜石へ (昼ごろ釜石着)。その後周辺を視察します。翌日以降は 1 日ないし 2 日間を現地でのボランティア活動にあて、最終日 (日曜日) の釜石神愛教会での礼拝 (聖餐式) に参加。そのまま出發し、夜のフェリーで八戸を出發し、翌朝苫小牧に着。となります。フェリーの時間については、多少の調整が可能です。ご相談ください。

〔日程の一例〕

10月26日(水) 20:00 ごろ札幌を出発
24:00 苫小牧発フェリー
10月27日(木) 7:30 八戸着・朝食
海沿いを視察しつつ南下
14:00 ごろ釜石着
釜石近郊を視察
10月28日(金) ボランティア
10月29日(土) ボランティア
10月30日(日) 10:30 聖餐式(釜石神愛教会)
聖餐式の後、釜石発
22:00 八戸発フェリー
10月31日(月) 7:00 苫小牧着・解散

参加費用は1万円(食費は自己負担。尚、釜石支援センターで朝食150円・夕食350円にて提供しております) 宿泊は釜石支援センターになります。

現地での作業内容ですが、写真洗浄・仮設の訪問が中心となります。(がれき片付け等のボランティアは、釜石支援センターでは現在扱っていません)

引率教役者は毎回変わります。主教様の引率もあるかも?!

<日程>

10月26日(水)夜発・・10月31日(月)朝着 引率:未定(交渉中)
11月9日(水)夜発・・11月14日(月)朝着 引率:大町司祭

12月以降も現在交渉中です。募集の開始は「至急便」でお知らせしますので、今しばらくお待ちください。お問い合わせは震災支援室まで

【いっしょに歩こう!プロジェクト】

「いっしょに歩こう!プロジェクト」の活動の様子は、月一度発行予定の「ニュースレター」や、「いっしょに歩こうプロジェクト!」ホームページ<http://nssk.org/walk>で、ご覧いただけます。

【支援室の活動】

インターネットで支援室ブログが見られます。今後、毎日の釜石ベースの活動もアップされます。
<http://nsskhokkaido.blog89.fc2.com> 又は、「日本聖公会北海道教区ホームページ」→「東日本大震災」→「震災支援室ブログ」の手順でご覧下さい。

【震災支援室より】

- ◎ 支援室ニュースは、各教会において掲示下さると共に、増刷して配布ください。支援室ニュースのバックナンバーは、日本聖公会北海道教区のホームページにでも見る事ができます。
- ◎ 教会や個人での取り組みについても、お知らせください。他の教会の活動の参考になります。

【連絡・問合せ先】 電話:011-561-0451、ファクス:011-736-8377
Eメールアドレス:s a i g a i @ n s k k - h o k k a i d o . j p
釜石ベース:090-6999-7840